

2019年3月期第2四半期
決算説明会における質疑応答（2018年11月8日）

※決算説明会開催日（2018年11月8日）時点の情報に基づく内容です。

1. 通期業績予測における売上高の下方修正に関して

<p>2019年3月期（以下本年度）通期業績予想において、売上高が600億円減少した要因を教えてください。</p>	<p>売上高減少の主な要因は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中東案件において工事終盤の進捗停滞を見込んだこと ② 数百億円規模の売上計上を見込んでいた東南アジアの案件に関し、顧客都合により規模が縮小したこと ③ 本年度から売上計上本格化したFLNG案件に関し、期初に想定したレベルまでは売上計上が伸びないとの見方になったこと <p>以上の3点である。</p> <p>なお、③の売上計上の遅れは、会計上の進捗率が期初予想を下回る見込みとなったことによるもので、実際の工事進捗は順調に進んでいる。</p>
<p>下方修正したとはいえ、通期の売上高予想を達成するには下期に売上を伸ばす必要があるが可能なのか？</p>	<p>上期実績を踏まえ遂行中の各案件の進捗予想を改めて行い、それらを積み上げた結果として下期の売上高の伸びを予想している。</p>

2. イクシスプロジェクトにおけるリスクについて

<p>本日の発表で言及されていたイクシスプロジェクト関わるリスクについて、改めて説明願いたい。</p>	<p>決算概要の中で説明させて頂いた通り、顧客との間でレインバースポーションの精算や未承認のチェンジオーダーに関して、協議を継続しており、一部は仲裁となっている。また、本プロジェクトの一部である複合サイクル発電設備の建設に関し、サブコントラクターが固定金額契約で請負ながら途中で役務を放棄したため、当社グループが他のサブコントラクターを起用し、コストを立替つつ工事を継続させている。当該立替えコストについては役務を放棄したサブコンに請求しており、こちらも仲裁となっている。</p> <p>会計上は、会計士（監査人）や弁護士等の第三者と協議しつつ、適切かつ保守的に、妥当と考えらえる金額を決</p>
---	--

	算に反映している。
顧客との協議の対象額と複合サイクル発電設備工事に関わる立替えコストについて、金額規模を教えてください。	対象額全体のうち、保守的に見て回収可能として決算に反映している額の合計は、当社分として1,000億円程度である。
複合サイクル発電設備工事に関わる立替えコストは、BSの未収入金に計上されているとの理解で良いか？ 今後もこの額は増えていくのか？	ご理解の通り、未収入金に計上されている。今後、大幅な増加は見込んでいない。

3. 不採算案件の状況

本年度第2四半期に採算が悪化した案件があるとの説明があったが、クウェートの案件であるとの理解で良いか？ その理由と金額的インパクトについて教えてください。	対象案件については、ご理解の通りである。 スケジュールの遅れにより生じるコスト、及びスケジュールのキャッチアップのために必要なコストを見込んだ。 プロジェクト終盤になってライセンサーから安全面の観点で機器材質変更のコメントが入り、本件の対応に時間を要することが確認された。また、外国人労働者のビザ取得の問題が引き続きあり、当社担当以外のエリアにおける複数のプロジェクトも終盤に入中、熟練労働者の確保や追加投入が難しく、そのことも進捗に影響して行くであろうこと等を考慮した。 これら対応に関わる、具体的な金額規模の説明は差し控えさせて頂きたい。
(過去に工事損失引当の対象となった) サウジアラビアおよびアルジェリアの案件に関し、その状況を教えてください。	サウジアラビアの案件に関しては、年度内の完成を見込んでいる。 アルジェリアの案件(原油・ガス処理設備)については、採算悪化の要因となった問題点を克服し、第1トレインを完工した。 これら両案件について、さらなる採算の悪化はないと認識している。

4. LNGカナダプロジェクトについて

LNGカナダプロジェクトについては、モジュール工法の適用により、現地での工事量を最小化するとの説明があった。 モジュール工法の適用により、どれくらい	LNGカナダプロジェクトにおいては、モジュール工法の全面適用や各モジュールの大型化により、現地工事量をスティックビルトと呼ばれる在来工法に比べ、7割程度減少させることができる見込みだ。
---	--

現地での工事量が減るのか教えて欲しい。	
LNG カナダの粗利率は 10%程度との理解で良いか？	当社規定の利益率を考えている。
LNG カナダプロジェクトについて、第 3・4 トレイン増設の計画もあると聞いている。増設が決定した場合、受注済み第 1・2 トレイン建設プロジェクトと同規模の受注額で、当社グループが随意契約を受注するのか？	顧客が決めることであり、なんとも言えないが、当社グループとしては是非受注したい。トレインの増設プロジェクトの場合、ユーティリティ設備については既存設備と共有できる部分が多いため金額規模は若干落ちるが、相応の額にはなるであろう。

5. ヤマル LNG プロジェクトについて

順調に進捗しているヤマルプロジェクトについては、利益改善を決算に織り込んでいるのか？	プロジェクトは順調に進捗しており、第 2 トレインが完工し、ボーナスの話もあるなど、当第 2 四半期及び通期業績予想に採算改善を織り込んでいる。
--	--

6. 持株会社化関連

持株会社化することで何がかわるのか？	現状、海外オイル&ガス分野の EPC 事業中心の経営であり、同分野プロジェクト遂行の成否に会社経営が左右されてしまっている。そこから脱却するため、新たな事業の柱として、海外インフラ分野、国内 EPC 事業、製造業も加えた複合事業体制に変え、グループ目線での経営に変えていくことが目的である。
今回の持株会社化は、将来、M&A を行い易くすることを意識しているのか？	今回の改革は、M&A が目的ではない。グループとして海外プラントマーケットに左右され難い、新たな事業の柱を作っていくことが目的である。

以上